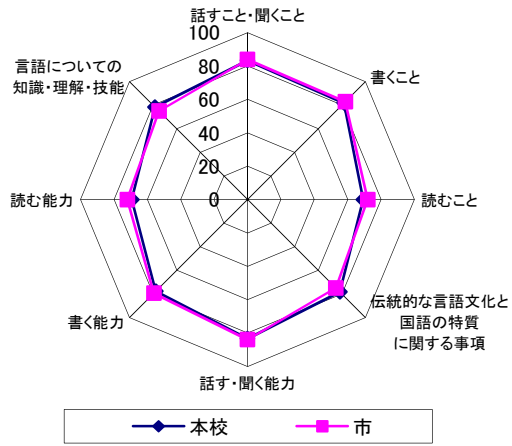


宇都宮市立一条中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	83.3	83.9	83.1
	書くこと	81.8	82.9	68.6
	読むこと	69.3	72.0	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.3	74.8	68.7
観点別	話す・聞く能力	83.3	83.9	83.1
	書く能力	77.8	79.3	67.0
	読む能力	69.3	72.0	67.8
	言語についての知識・理解・技能	78.4	75.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

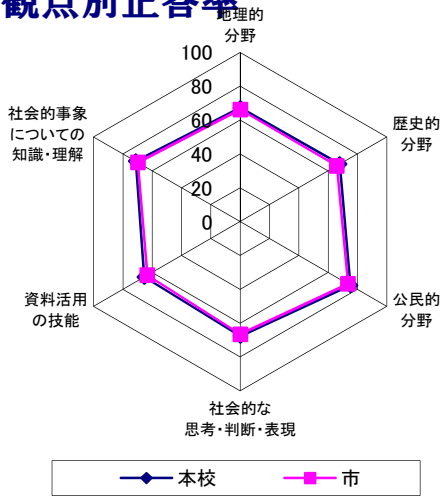
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話の内容を正確に聞き取る」設問では95.2%の高い正答率であった。 ●領域別正答率では、0.6ポイント市の平均を下回っている。「話し手の意見に対して自分の考えを持ち、意見を述べる」設問では、市の平均より1.7ポイント下回り79.1%であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・スピーチ、意見文の発表等の授業を定期的に行っていく。評価プリントや振り返りシートなどを活用し、客観的な視点から物事を見る工夫をしていく。また、相手の意見に対して、自分の意見をもつことを、書く作業と合わせて指導していく。 ・聞き取りテストを継続して行い、メモを取りながら内容を的確に理解する力をつけさせる。
書くこと	○「指定された段落構成で書く」ことについては、市の平均を0.7ポイント上回っている。 ●領域別正答率では、1.1ポイント市の平均を下回っている。「自分のとった立場の理由を書く」や「文章の内容に沿った自分の考えを書く」設問では、市の平均よりいずれも2.4ポイント下回った。また、無回答の割合が市の平均より1.8ポイント高くなっている。	・課題作文や意見文等、書く機会を増やし、添削・評価することで技術の向上を図る。また、文章を書かせる機会を多く確保していく。 ・自分の考えが相手に効果的に伝わるように書かせるために、根拠を客観的に述べる方法等もあわせて指導していく。
読むこと	○「新聞記事の内容に合った資料を選択する」設問での正答率は、市の平均と同程度である。 ●領域別正答率では、2.7ポイント市の平均を下回っている。「説明文の読み取り」「新聞記事の内容の読み取り」については、特に記述式の設問での正答率が低い。	・説明文、文学的な文章の読み取りにおいては、様々な文章を通して段落相互の関係やつながりを意識させる学習を意図的に配置していく。また、必要な情報を正確に取り出す力をつけさせるため、読み取りの際には根拠を示す習慣をつけさせていく。 ・NIEに関連させた授業を今後も展開し、新聞記事の内容の把握や見出し・リード文の付け方等についてもふれていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域別正答率では、3.5ポイント市の平均を上回っている。 ○「第3学年までに学習した漢字」については、すべて市の平均を上回っている。 ○「文法・語句に関する知識」は、すべて市の平均を上回っている。特に、助動詞の識別については、市の平均を6.1ポイント上回っている。また、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問では、市の平均を5.1ポイント上回っている。	・新出漢字の読み書きの反復学習や定期的な漢字テストを通して、中学校までに身につける常用漢字の定着を図っていく。 ・読み物の教材の中でも、必要に応じて文法事項に触れ、確認を行っていく。 ・多くの古典作品に触れさせ、有名な古典作品については、その一節を暗唱させるなどして、親しませる。また、古典の常識小テストなどの取り組みを行う。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	67.2	66.2	58.0
	歴史的分野	67.9	65.8	60.8
	公民的分野	75.1	73.5	69.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	67.6	66.6	58.6
	資料活用の技能	65.5	63.4	55.9
	社会的事象についての知識・理解	71.3	69.8	64.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

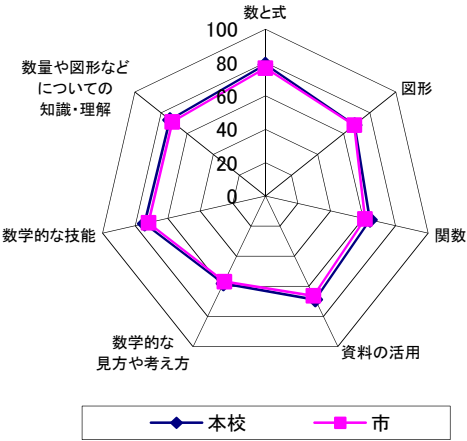
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○領域別正答率では、市の平均を1ポイント上回り、概ね良く理解されている。特に、世界の人々の生活と環境についての設問では、市の平均を3ポイント以上上回った。 ●ヨーロッパ州についての設問で、外国人労働者の移動に関する資料の読み取りの問題では、市の平均を5. 2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・世界や日本の諸地域における特色ある事象を、他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色をとらえさせる必要がある。 ・ヨーロッパ州についての基本的事項を再確認するとともに、外国人労働者の移動に関する統計資料を読み取り、各国の工業生産額のグラフと結びつけて考察できるように、思考力の向上を図っていききたい。
歴史的分野	○領域別正答率では、市の平均を2. 1ポイント上回り、概ね良く理解されている。特に中世の日本の産業の発達を資料から読み取る問題では、それぞれの設問で市の平均を6ポイント以上上回った。 ●朝鮮戦争の影響を答える設問では、正答率が50%ほどで、市の平均を11. 6ポイント下回った。	・歴史的分野では、近現代の我が国と世界の歴史の大きな流れを理解させ、各時代の特色や基礎的な内容の定着を図る必要がある。 ・第2次世界大戦後の歴史学習の充実を図り、特に、朝鮮戦争については、戦争の経緯・影響など基礎的な内容の確認をさせるとともに、その後の日本の発展について考察させる学習活動を実施していききたい。
公民的分野	○領域別正答率では、市の平均を1. 6ポイント上回り、概ね良く理解されている。特に、現代の民主政治と社会の中で、地方自治における直接請求権について答える設問では、市の平均を10. 1ポイント上回った。 ●国会と内閣の関係で、議院内閣制という語句を答えさせる設問では、正答率が50%ほどで、市の平均を17. 1ポイント下回った。	・現代の民主政治について、特に地方自治について理解が進んでおり、さらに実際の県・市の政治に結びつけて考えさせ、思考力の向上を図っていききたい。 ・国の政治について、地方の政治と関連を図りながら再確認し、基本的事項の定着を図っていききたい。特に、国会と内閣の関係については、大統領制との比較を踏まえて、より深く考察させる学習活動を実施していききたい。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	78.9	76.7	72.6
	図形	68.3	68.1	63.8
	関数	64.2	61.2	54.4
	資料の活用	68.9	66.3	55.4
観点別	数学的な見方や考え方	58.2	56.8	50.8
	数学的な技能	74.2	71.9	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	73.2	71.4	63.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

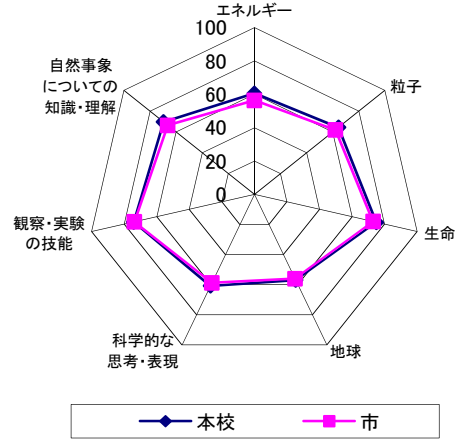
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域別正答率では、市の平均を2. 2ポイント上回っている。 ○式の展開・因数分解、において85を超えていて、よくできている。 ●式の計算において、負の数の累乗や分配法則を使った計算では、90以上であるがケアレスミスが見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学習時間の経過とともに、ミスが見られる。学習内容のさらなる定着のために、繰り返しのドリルが必要。負の数の累乗や分配法則を行ったあとの同類項のまとめ方は、機会あるごとに注意を促し、符号等の単純なミスを繰り返さないようにする。
図形	○領域別正答率では、市の平均を0. 2ポイント上回っている。 ○角の二等分線の作図や相似な図形の証明において過程を押さえた図形の性質を理解している。 ●相似な図形の性質から、長さを見つけ出す過程でミスが見られる。	・作図や証明など解法の過程や手順を押さえて学習することで、取り組む意欲を育てる。相似な図形については、図形を比べる視点を押さえた指導をすることで、柔軟な見方や考え方を身につけさせる。
関数	○領域別正答率では、市の平均を3. 0ポイント上回っている。 ○関数の関係について、表・式・グラフから結びつけて理解し、3～4ポイント上回っている。 ●数学的な見方や考え方に関する問題で、市の平均を5. 4ポイント上回っているが、活用面でさらに上を目指せるのではないかな。	・身近な事象を関数の関係として、表・式・グラフから関連付けて基礎を定着させた後、数学的な見方や考え方の課題への取り組みを多く取り入れることで活用力を育成する。
資料の活用	○領域別正答率では、市の平均を2. 6ポイント上回っている。 ○度数分布表について理解し、相対度数を求めることで7. 4ポイント上回っている。 ○サイコロやコインを投げたときの確率を求めることが77以上でよくできている。	・多様な見方で資料の分析を行う授業を行う。授業を通して、相対度数、中央値などの代表値を求めたり活用したりする経験を重ねる。それらの経験によって、それぞれの代表値の意味を正確に理解し、活用できる力を身につけさせる。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	60.6	56.4	49.9
	粒子	64.4	62.0	57.4
	生命	74.9	72.9	67.1
	地球	56.9	56.0	48.5
観点別	科学的な思考・表現	60.8	58.8	52.1
	観察・実験の技能	74.2	73.8	67.6
	自然事象についての知識・理解	69.7	66.5	61.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

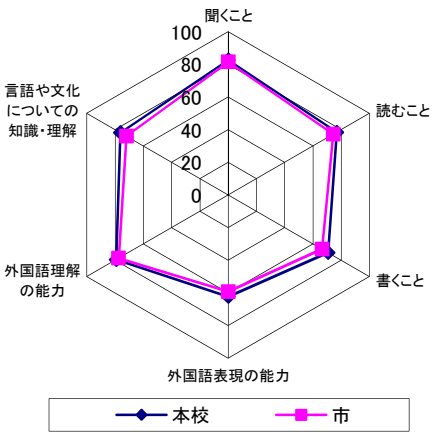
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域別正答率では、市の平均を4. 2ポイント上回っている。特に、力学的エネルギー保存について理解し、おもりの速さが最大になる点を推測する問題では、市の平均を9. 9ポイント上回っている。 ●電気器具を順に使っていくとき、どの電気器具を使った時点でブレーカーが落ちるかを推測する問題で、市の平均を0. 8ポイント下回っている。	・学習した内容が、実際の生活の中でどのように関係しているのかをしっかりと理解させ、生活の中で活用できるように指導していく。特に電気については、日常生活に密接しており、様々な場面で生かせる内容でもあるので、具体的に生活とどのように関連しているかを指導していく。
粒子	○領域別正答率では、市の平均を2. 4ポイント上回っている。特に、銅イオンを理解しているかを問う問題では、市の平均を11. 3ポイント上回っている。 ●温度を下げる方法以外で、水溶液から結晶をとり出す方法がわかる問題では、市の平均を4ポイント下回っている。	・同じ結果を出すために複数の実験方法がある場合、それぞれの実験方法の利点と欠点を考えさせ、それをもとに、どのような条件のときにどのような実験方法が適しているかを適切に判断できるように指導していく。
生命	○領域別正答率では、市の平均を2ポイント上回っている。特に、有性生殖の例を指摘する問題では、市の平均を4. 2ポイント上回っている。 ●目の虹彩を説明する問題では、0. 6ポイント、酸素の発生が植物のはたらきによることを確かめるための対照実験を設定する問題では、0. 8ポイント、それぞれ市の平均を下回っている。	・課題を解決するための観察・実験を、自分たちで考えさせる場面を多くしていくことで、何のためにやっている観察・実験なのかをしっかりと把握させるとともに、観察・実験を通して科学的に解決していく方法を身につけさせていく。
地球	○領域別正答率では、市の平均を0. 9ポイント上回っている。特に、火成岩の特徴から、岩石の種類がわかる問題では、5. 2ポイント市の平均を上回っている。 ●天気の変化のようすと天気図から、地域を推測する問題では、市の平均を6. 8ポイント下回っている。	・天気の基本的な知識をしっかりと身につけさせるとともに、移動していく前線によって天気がどのように変わっていくのかを理解させる。また、前線が通過する前や後での天気の移り変わりの基本的なパターンを、天気図をもとに説明できるように指導をしていく。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	82.6	81.4	76.1
	読むこと	76.8	74.4	71.2
	書くこと	70.8	66.5	60.7
観点別	外国語表現の能力	62.3	59.3	51.7
	外国語理解の能力	79.3	77.5	72.8
	言語や文化についての知識・理解	76.2	72.0	69.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○聞くことの領域別正答率は、市の平均より1. 2ポイント高い。絵を適切に表している英文を聞き取ることに限っては、90%を超える正答率であった。対話やある程度長い文章などの内容を聞きとる問題の正答率も、80%を超える正答率であった。 ●対話の内容を聞き取り、資料をもとに英文で答える問題の正答率は40%弱の正答率であり、市の平均より、0. 1ポイント低かった。	・普段の授業でクラスルームイングリッシュを基本とし、くりかえし聞かせ耳を慣らせる。 ・ペア活動で簡単な英文を言い合う際、相手の言った英文を筆記による記録などさせ、正確に聞き内容を理解する練習を継続させる。 ・既習の内容をリスニングしたあと、その文章を筆記による記録を取らせる練習を、常習的に毎日の授業の中で必ず行う。
読むこと	○読むことの領域別正答率は市の平均より、2. 4ポイント高い。対話文、長文などの読み取りの問題では、平均80%を超える正答率であった。 ●対話の流れから適切な発言を判断したり、スピーチの要点を把握する問題では、74%～75%の正答率であり、特にスピーチの要点把握に関しては、市の平均より0. 6ポイント低かった。	・言葉の意味を正確に覚え、そこから英文の構造を踏まえつつ英文の意味を考えていくということを2年から行っている。3年の文法内容から徐々に、後置修飾が増え、主語動詞などの見極めが難しくなるが、継続的に様々な英文に触れさせ慣れていくことが必要である。 ・普段の授業で、英文が読めるということは楽しいことだということを、実感体感させ、自分から進んで読み進めていける態度を育む。
書くこと	○書くことの領域別正答率は市の平均より、4. 3ポイント高い。語順並べ替えが難しい英文を正しい語順で書くことができる問題の正答率は、88%以上であった。 ●自分の行ってみたい場所についてまとめた内容を3文以上で書く問題では、市の平均よりは3. 2ポイント上回っていたが、73%程度の正答率であった。 ●動名詞、不定詞などを使い説明をする英作文の正答率が、市の平均より1. 1ポイント上回っていたが、結果46%～56%の正答率であった。	・毎回の授業で新出単語は、まず意味を正確に覚え、単語練習し、小テストを行うことで必ず書けるようになるよう時間をかける。 ・対話文などの比較的簡単な英文の単元はペアで暗記し、書けるところまで練習を継続して行う。また、語順に強くなるため毎日10分くらいの時間を取り、誰でもできる基本的な程度の問題を繰り返し行った結果その点での書く力は伸びてきている。